

序章 新たな世界史の視点

「グローバルヒストリー」 25

——従来の一国史では見えなかったもの

世界全体を視野に入れた歴史分析 26

グローバルヒストリーの萌芽 28

ボメランツの「大分岐論」による歴史の新たな見方 31

グローバルヒストリーの特徴、「四層構造」と「五つの指標」 35

「比較」と「関係性」で歴史を読み解く 43

なぜ今、グローバルヒストリーが必要なのか 44

第1章 帝国の黎明期 47

——二流国イギリスの「帝国の兆し」

覇者スペインを支えたイタリア都市 48

「ジェノヴァ」がもたらした新大陸の「発見」 50

帝国への第一歩はいつか 53

支配と被支配を作り出したイギリス国教会 56

大陸への影響力を持ち続けるしたたかなイギリス 59

十六世紀は「銀の世紀」 62

世界にもたらされた日本の銀 64

国家財政を立て直したグレシャムの改革 68

商船であり海軍でもあった「海賊」 71

「海賊」と「商人」の境目 75

私掠船をうまく利用したイギリス 78

新産業の創出と東インド会社 80

ジェントリーとは何か 84

イギリスにおけるルネサンス 86

第2章 帝国への転換期

——歴史を大きく変えた「イギリス革命」

十七世紀はオランダの世紀

オランダの強さの秘密

オランダとイギリスの決定的な違い

アムステルダムとロンドンの深い関係

オランダは世界初の「ヘゲモニー国家」なのか

十七世紀の「グローバル・クライシス」

複合君主制国家という国の形

ヨーロッパを大きく変えた三十年戦争

「革命の時代」の幕開け

クロムウェルが行ったアイルランドの再征服

王政復古が招いた議会の分裂

歴史の大きな転換点となった名誉革命

イギリス革命の真相はエリート層の「利権争い」

89

第3章 イギリスの「長い十八世紀」へ前半

——第一次帝国／大西洋を挟んだ帝国

イギリス発展のカギは「商業革命」

立憲君主制の基礎を築いた英蘭体制

ユナイテッド・キングダム形成

イングランド銀行設立による経済的発展

議会制民主主義の恩恵

世界初の金融バブルの崩壊

ロンドン・シティが世界の金融の中心になった理由

現代の常識では測れない「経済」と「国家」の関係

イギリス帝国を作り上げた「戦争」と「貿易」

海外貿易が急成長した理由

大西洋貿易の利権を決定づけた七年戦争

奴隷貿易の驚くべき実態

133

134

138

142

146

151

153

158

161

163

169

172

175

90

93

97

100

102

104

107

110

113

119

123

125

128

第4章 イギリスの「長い十八世紀」後半

——第二次帝国／大西洋からアジアへ

イギリス帝国発展の素地

第一次帝国から第二次帝国へ

植民地アメリカが果たした役割

西インド諸島の植民地と北米植民地の相違点

アメリカはなぜイギリスから独立したのか

保護貿易から自由貿易へ

アジアの優位性を取り込んだイギリス帝国

産業革命は「輸入代替」がキーとなった

問い直される「産業革命」

なぜ中国で産業革命が起きなかったのか

一七八〇年以降、イギリスが中国とインドを追い抜く

イギリス帝国が求めたのは領土か商業利益か

なぜシンガポールが決定的に重要だったのか

アジアにあった「自由貿易」の伝統

東インド会社の独占貿易から自由貿易へ

183

184

187

190

193

198

201

206

212

217

219

223

224

226

231

235

東インド会社に先立つパルシー商人の密輸

239

第5章 ヘゲモニー国家

「イギリス帝国」の繁栄

——なぜ覇権国家となったのか

「黄金期」直前の闇

「世界の工場」から「世界の銀行家」へ

なぜ力を持つ国は自由貿易を掲げるのか

穀物法撤廃と自由貿易への転換点

ジェントルマン支配の存続

ヨーロッパにおける自由貿易の拡大

世界を変えた「スエズ運河」と「アメリカ大陸横断鉄道」

何を経済の支柱に変換したのか

公式・非公式帝国を超えたヘゲモニー国家

カナダの自立に絡んでいたアイルランド系移民

知られざる「グレートゲーム」

243

244

247

249

252

256

258

263

266

271

276

280

第6章 イギリス帝国の帝国経営

——自由貿易か保護貿易か

安上がりの植民地「白人自治植民地」

異民族支配型植民地「英領インド」

植民地の独立運動を指導したエリートたち

帝国臣民に平等に与えられた権利

インド人エリート層の中から生まれた帝国統治批判

チエンバレン・キャンペーンの真の狙い

イギリスがしかけた「南アフリカ戦争」

イギリスが自らしかけた戦争で苦戦した理由

南アフリカ戦争後の財政難

切り札としての「国王大権」

「光栄ある孤立」の終わり・日英同盟

第一次世界大戦と変化するイギリスの思惑

285

第7章 帝国の衰退

——新たな「コモンウェルス」体制へ

戦時協力とナショナルリズムの高まり

民族自決の原理が帝国支配を揺るがす

二層構造の「帝国」コモンウェルス体制

グローバルヒストリーから考える世界恐慌

ウィン・ウインの関係だった戦間期の日英貿易

なぜチエンバレン内閣は宥和政策を行ったのか

335

第8章 したたかに生き残るイギリス

——金融立国の道へ

アメリカの戦時協力とその代償

インド軍の戦争協力でできた大きなツケ

インド・パキスタンの独立の陰で何が起きたのか

分割払いを余儀なくされたスターリング残高

コロンボプランで消えてなくなったイギリスの債務

363

364

367

369

373

377

332

328

324

320

316

310

306

301

298

295

292

286

米ドル・プールが物語る消えぬ大國幻想	379
「モンウェルスの存続と変容	382
帝国の終焉を決定つけたスエズ戦争	386
拒否され続けたイギリスのEU加盟	389
グローバル視点で動くシテイの金融	392
「不満の冬」、賃上げを求める大規模なストライキ	394
「鉄の女」マーガレット・サッチャーの政治	397
「労働移民」「難民」という火種	401
ブレグジットの理由とその後の混乱	404
スナク首相就任に見たイギリスの希望	408

終章 これからのヘゲモニー国家とは？

——問われるリーダーシップ	415
「ブリッジ」としてのイギリス帝国史	416
次世代のヘゲモニー国家に求められるもの	419

おわりに 424

主要参考文献 427

写真提供 ユニフォトプレス
編集協力 板垣晴己
図版・DTP 美創